



# 阿武隈だより

A b u k u m a D a y o r i

2010.12 第35号



農業用水のある風景

menu

- 土地改良区理事長訪問 <矢吹原土地改良区>
- 阿武隈所長挨拶
- Information <平成 22 年度 阿武隈の機構と業務分担>
- 阿武隈情報
  - 阿武隈土地改良調査管理事務所の沿革と概要
  - 平成 22 年度調査概要
  - 事後評価調査「山元地区」の結果が公表
  - 広域基盤整備計画調査「阿賀川地域」がスタート
- 地域情報
- 新たな食料・農業・農村基本計画
- きらりピープル～土地改良区 こんな人を探せ！～ <亘理土地改良区>

農林水産省

## 土地改良区理事長訪問

矢吹原土地改良区

理事長 野崎吉郎



◇プロフィール◇

- 昭和 30 年矢吹町生まれ。矢吹町在住。
- 矢吹中学校、福島県立岩瀬農業高等学校を経て東京農業大学卒業。
- 旧矢吹町農協(現 J A 東西白河農協)に入組。金融課長、金融共済部次長、金融共済部恒常推進課長などを経歴。
- 平成 16 年矢吹町長に初当選。現在 2 期目。
- 平成 22 年矢吹原土地改良区理事長、隈戸川水系農業水利開発促進協議会会長就任。
- 趣味は読書、スポーツ観戦、映画鑑賞。

当土地改良区の羽鳥疏水は、会津側に西流する鶴沼川を羽鳥村四日原で堰止め、水流を充満して矢吹ヶ原へ東流するという壮大な「西水東流」構想によって昭和 31 年に誕生したものです。

西白河郡から岩瀬郡にまたがる広大な原野であった矢吹ヶ原一帯は、長い間旱害などの凶作を経験し、農民は貧困の状態にありましたが、この羽鳥疏水の誕生により、一面の美田となりました。

この羽鳥疏水の恩恵によって矢吹ヶ原は豊かな台地となり、多くの人たちが移り住み、街として発展してきましたが、その羽鳥疏水の維持管理を主要業務としている当土地改良区は矢吹ヶ原の開拓の歴史そのものと言えます。

その羽鳥疏水も完成から半世紀以上が経過していることから老朽化が激しく、当土地改良区では平成 4 年度から基幹施設を全面的に更新する国営隈戸川農業水利事業を実施してきました。同事業は今年度完工を迎えることとなりましたが、私は、その記念すべき年に理事会の選任により、当土地改良区理事長に就任いたしました。先人たちの壮大な構想と尽力で実現した羽鳥疏水を甦らせ、後人たちにその大切な財産を繋いでいく大きな役割を託されたものと受け止めています。矢吹町で生まれ育った私は羽鳥疏水と共にあった一人でありましたが、大きな立場で羽鳥疏水に関わっていけることを誇りに思います。

水田稲作は世界でも例を見ず、田植えをして一面緑になった生命感あふれる景観、稲穂が実り一面黄金色になった豊穰感あふれる景観、まさに日本特有の情景であります。米を中心にした彩りある食卓は食文化として誇るべきものであるだけではなく、日本人の健康の秘訣として医学に通じるのではないのでしょうか。農業は日本の文化であり、田んぼの風景は時代が変わっても私たち日本人の故郷であると言っても決して言い過ぎではないものと思います。

近年、農業については厳しい情勢ばかりが報じられ、政策等についても決め手に欠くものが続いているように感じています。こういった状況を打破り、多くの農家、特にこれからの世代を担う若い農家が自信と希望をもって営んでいける、農業をそんな姿にしていくことは現代社会における重要な課題ではないかと考えています。それがいかに困難なものかは承知しておりますが、農業、農政において土地改良区は多角的な考えを持ち、多角的な分野で行動できる農家支援のユーティリティープレイヤーであると信じています。当土地改良区も羽鳥疏水をとおし、大きな目標と高い理念をもって農業、地域に対する使命を果たしていきたいと考えておりますのでご指導、ご鞭撻をお願い申し上げますと共に、関係の皆さまのますますのご活躍をご祈念申し上げます。

## 阿武調所長挨拶



### 「阿武調開設 40 周年にあたって」

阿武隈土地改良調査管理事務所

所長 櫻庭 光 一

この10月、新請戸川農業水利事業建設所が1課4人で発足しました。平成9年の新安積以来実に13年ぶりの新規地区です。地元の皆さんの期待に応えるべく、事業を軌道にのせ、早期に事業効果が発現できますよう、ご支援とご協力のほどよろしくようお願い申し上げます。

さて、阿武隈土地改良調査管理事務所は、昭和45年4月の「阿武隈地域総合開発調査事務所」として発足から40年の節目を迎えました。昭和44年策定の新全国総合開発計画において、阿武隈地域が大規模畜産地帯として位置づけられたことに伴い、山系の調査事務所として、2課11名でのスタートでした。昭和53年度には会津総合開発調査事務所の業務を統合し、その後、平成元年度には直轄管理している羽鳥ダム管理事務所の業務を統合し、皆様方のご支援とご協力のもと、今日に至っています。改めてお礼を申し上げます。

さて、世界の食料事情は中長期的にはひっ迫基調が見込まれる中で、この20年間を見ると、我が国農業・農村を巡る情勢は、49%あった食糧自給率の9%もの低下、農業所得の半減、約39万haに達する耕作放棄地など、農業の生産構造の脆弱化や農村地域の疲弊が深刻化しています。さらに、食料の安定的な生産の基礎となる基幹的水利施設は、戦後集中

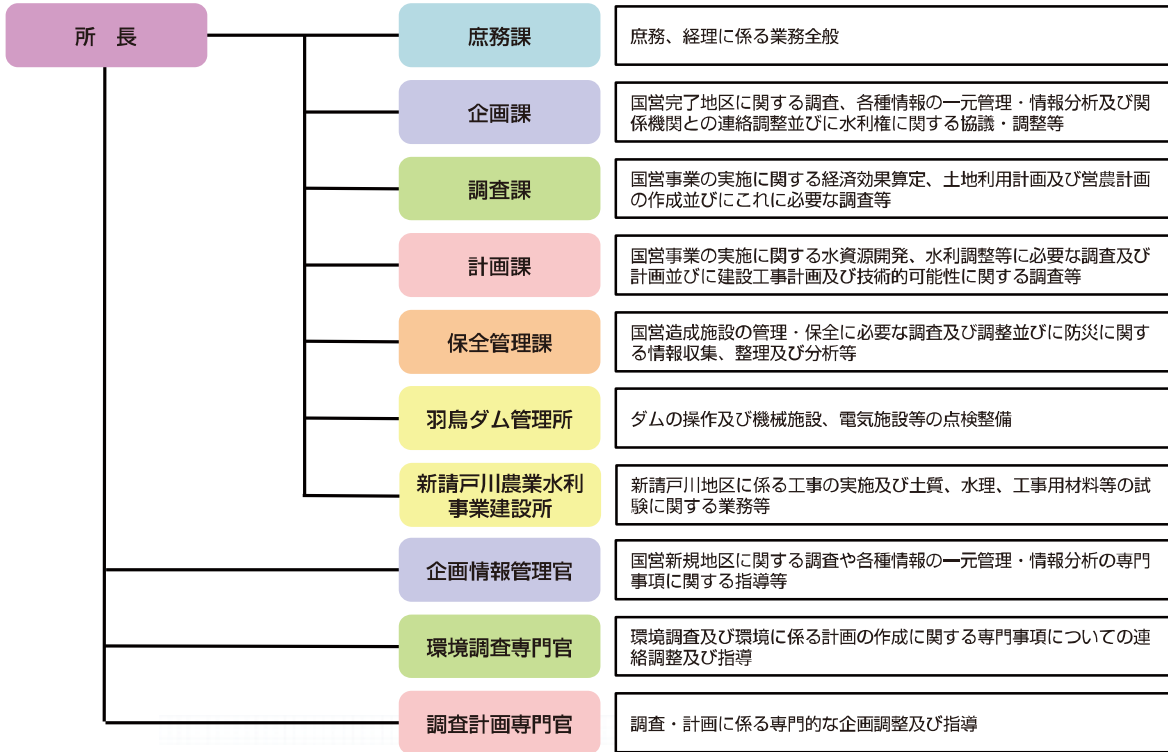
的に整備されてきたことから順次老朽化が進行し、総資産額7.6兆円の国営造成施設のうち老朽化のため早期に改修が必要となる施設は、今後10年で約4分の1の約2兆円に達すると想定されています。管内においては、国営事業完了20地区のうち、事業完了後20年以上経過している地区が9地区あり、適時適切な整備・更新により施設の機能をしっかりと維持していくことが急務となっています。

昨今の国と地方の厳しい財政状況のもと、国営事業については、施設の新設、地区全体の更新から戦略的な保全・管理による長寿命化への大転換を図るため、新たな制度と組織の再編が検討されており、調査管理事務所は正にこれを担う出先機関として、その果たす役割は益々重要となっています。今後とも、新たな基本計画に則り、農業・農村の振興、食料自給率の向上のため、40年前の原点に立ち返って、より一層信頼される阿武調を目指して、職員一丸となって邁進するつもりですので、完了地区のフォローアップはもとより安積疏水二期地区、南貞山堀沿岸地区の促進など当調査管理事務所の業務の推進に対して、これまでにも増して関係者の皆様方のご理解とご協力をよろしくお願い申し上げます。



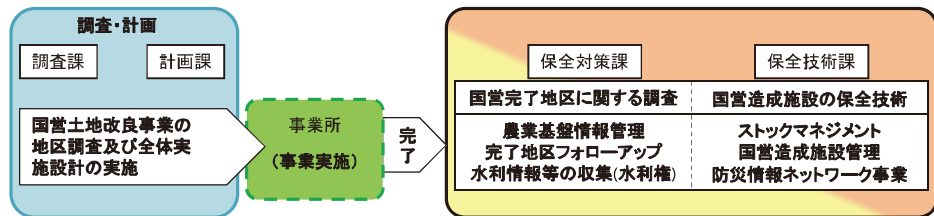
# Information <平成 22 年度 阿武調の機構と業務分担>

企画部門の体制強化のために企画課を、施設管理の充実のために保全管理課を設置し、業務実施体制を強化しております。また、平成 22 年 10 月に新請戸川農業水利事業建設所が開設しました。



## 土地改良調査管理事務所の業務実施体制強化

### <旧体制>



### <新体制>

